

北星学園大学

後援会だより

vol.105

発行日 2011年6月1日
発行者 北星学園大学
後援会事務局
札幌市厚別区大谷地西2
丁目3番1号 〒004-8631
電話(011)891-2731
印刷(社福) 北海道リハビリ



人間の悲しき、人間の美しき

— 大震災が改めて教えたもの

学 長 金井 新一



まもなく春の声を聞くという三月の十一日に東北地方を襲った大地震と大津波は、本当にとてつもないもので、その上さらに、原発事故という恐ろしい災厄も加わったのでした。

「災害は忘れたころにやってくる」という言葉のとおりです。また私たちはすでに長い間(すでに三十年以上も)、巨大地震はまもなく東海沖で発生するとの予測を知らされていたのですが、そうではなく、またもや三陸沖だったのです。このことから、地震科学がまだ使える段階にないことを思い知らされたのでした。災害が忘れたころにやってくるということは、昔の人は、災害は一定の時間をおいて繰り返してやってくると思っていたのでしょうか。つまり大きな天災がなくなることはないのだと。ですから、私は今回、卒業



前向き

後援会会長 深澤 秀則

サラ・C・スミス女史の「世にあつて星のように輝き」の建学理念のもとで一二〇年有余の歴史と伝統を脈々と継承している北星学園の大学、短期大学部を志望し、見事合格した新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今、皆さんは厳しい勉強に明け暮れた受験生時代を終えて、入学した喜びと、高校時代の、ややもすると束縛とも感じ取られる、様々な制約

しています。福島の暗い夜の平野を、怒りの速度となつて、私は行き過ぎる。この時、私は母の子守歌の本当の意味を知る。福島の暗い夜の平野を、怒りの速度となつて、私は行き過ぎる。この時、私は野の馬のいななきの本当の意味を知る。

式で、卒業生の諸君に言わざるをえませんでした。これからも、皆さんの人生には、必ずこうした天災とまた大きな人災(戦争や騒乱)が、おそらく交互に降りかかるのかもしれない。いや必ず降りかかることを覚悟していなければならぬ。確かに、そう考えねばならないのです。火山の噴火や地震といったものは地球の内部的な自己運動と言えようが、それは地球がいわば生きていく証しです。しかし、そのたびにどこかの地域は膨大な死傷者と破壊を免れないのです。地球が生きていく限り、つまり冷えて固まつてしまわない限りは、人間はそのように運命づけられているといえます。実は、福島市在住の詩人合亮一は、被災の地を、ガソリンを求めてむなしく車を走らせながら悲痛な言葉を記

からの解放と相まって、爽やかな笑顔で、大きな希望や抱負に胸をふくらませ、北星学園のシンボルであり、校花でもあるライラックが咲き乱れているキャンパスで、良き友との出会いや、学業、サークル活動等で、四年間、二年間の学生生活に慣れ始めていく時期でしょう。皆さんの入学直前に発生した東日本大震災によって、戦後六十五年以上をかけて営々と築き上げた、日本

の繁栄が一瞬にして崩れさりしました。想像を絶する未曾有の被害を被り、未だ一万人を超える行方不明の方達の捜索が続き、加えて福島原発の放射能漏れに対する、安全処理作業の長期化が懸念されています。日本中とは異なり、世界各国からの心温まる支援を受けながら、広域に亘る壊滅的被災地域は復興への道を歩み始めていますが、震災以前の状態に戻るのに、天文学的金額と予想も出来ない年月が必要とされるといわれ、社会のあらゆる分野に対する多大な影響が日常生活にも及び始めています。ボランティア等で皆さんの若さ、知恵、行動が必要とされる場面が起きてくると思われまします。この数年、学生が危惧する事は何年も続く超就職氷河期時代のこと

したが、日本の根底を揺るがしかねない自然災害が起きてしま、これまでの数十年間で日本が経験したことのない社会状況になりました。このような時代こそ、皆さんは前向きの考えで学生生活を送って下さい。四年間、二年間の大学生活は瞬く間に過ぎます。北星学園大学の教育目標である「人間性・社会性・国際性」を養い、北星学園大学、短期大学部に入学した目的を堅持して、自己管理と自己責任を忘れずに、大学生活を謳歌することを期待しています。

後援会とは？

北星学園大学後援会は、本学在学のご父母全員と、本学を卒業された方のご父母ならびに本学の同窓生を正会員として構成されており、設立以来今年で27年目になります。

本会の目的は、北星学園大学における教育、研究活動の充実と発展に寄与することであり、「北星学園大学のサポーター」としての活動を行っております。その一例



として、図書館への本・書架の寄贈、先生方の学術出版補助、国際交流経費補助、学術講演会や学会に対する補助などを行い、学生各種活動補助については、全国大会に出場する学生に対する補助や学生の就職活動支援、就職セミナー開催、大学祭への援助、奨学金補助、サークル活動で使う器具等の購入などを行っています。

これらの活動の他に、本会は「北星学園大学」とご父母とを結ぶパイプ役として、毎年地区別父母懇談会を開催しており、大学の教職員による本学の教育方針やカリキュラムについての説明、個別に学生の修学状況等について面談を行っています。地区別の父母懇談会は、北海道内7会場(札幌・函館・苫小牧・北見・旭川・帯広・釧路)で開催しております。

後援会が開催する各行事は、ご父母の皆様が北星学園大学について知る良い機会となっておりますので、多くの会員の皆様のご出席をお待ちしております。

なお、『後援会だより』は年4回発行し、大学の情報を皆様のお手元にお届けいたします。また、後援会ホームページでも過去のものでご覧になれますので、ご高覧いただければ幸いです。

保護者の皆様には、後援会にご入会いただき御礼申し上げます。日本に、大学、短期大学は、一、二〇〇校近くあります。後援会として、学生達に「北星学園大学に入学して良かった」と思われる、教育活動に誠心誠意努力しますので、大変な社会状況のなか御支援、御協力宜しくお願い致します。



新入生からの言葉 大学生活にむけて



経済学部
経済法学科
稗田 泰之

北星学園大学に入学して2週間が経ちました。これまで以上に責任が求められる大学生活に不安や緊張でいっぱいでしたが、毎日悪戦苦闘しながらも充実した日々を送っています。

大学生活を送るにあたっていくつかの目標を立てました。

第一に、社会で通用するような魅力的な人間になることです。大学での4年間は、高校までよりも自由な時間が大幅に増えます。今までは、自由であるのを良い事に無計画に遊んだりしていましたが、これからは時間管理を徹底し、周囲に流されることなく自分の意志で行動していきたいと思っています。また、様々な資格を取得したり、サークル活動などを通して、しっかりとした社会常識を身に付けていきたいと思っています。

第二に、自分の得意・不得意や、本当にやりたい事を見つけ出す事です。高校までは、既に作られた時間割に従ってただ受け身で授業を受けるだけでした。しかし、大学でははっきりとした将来設計に基づいた時間割を「自分で」立てていかななくてはなりません。4年間という限られた時間を最大限有効活用するため、本当に自分がやりたい事は何なのか、見出し、見極めていこうと思います。

これからの4年間で人生の中でかけがえの無いものとなるよう、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。



文学部 心理・応用
コミュニケーション学科
水野 太貴

入学してから、もう2週間が経過しました。履修登録をするために単位の計算をするという大変な作業や、サークル見学などをしていくうちにあっという間に過ぎました。同じように1年や4年もあっという間に過ぎていくのだろうと思います。もしその時までに、何か自分の中で形になっているものがないとしたら、その時には空しさや焦りしか残らないと思います。私は人間の心理に対する興味があり、将来「何か」を行うため、成し遂げるために、英語の力を伸ばしたくてこの大学に入学しましたが、将来の具体的な目標とか、前述の「何か」がどういったものか、ほぼ不明確なままここに来ました。ですから、それを大学生活を送る中で、はっきりとしたものにしていきたいと思っています。そのためにも出来ないことを挙げていって最後に残った出来そうな事をやるよりは、興味・関心を持ったものに取り組んでいきたいです。このように自由に行動できるのは、社会人に限りなく近く、それでいてまだ社会人ではない大学生の特権だと思っています。この行動には、周りの手を借りることになりますし、現にもうなりました。そしていつか、この恩を他の人に還元していける、そんな人になれるようにあっという間の4年間を過ごしたいです。



短期大学部
生活創造学科
川瀬 和佳

厳粛な入学式を終え、北星学園での生活を始めてから早くも2週間が経とうとしています。大学生活はこれまでの学校生活とは全く違い、戸惑うこともあります。新しい環境になるべく早く馴染めるように毎日悪戦苦闘しています。

新生活が始まり、様々な変化があった中で、私が特に大きく感じたことは、高校時代は学校で決められた時間割通りに授業を受けていたのに対し、大学では、ひとりひとりが興味のある教科を選択し、自分だけの時間割を考えることができ、学びたい内容がより深く学べるようになったことです。自己決定の幅が広がった分、かかってくる責任も今まで以上に増えてきますが、それだけ楽しいことも増えてくると思うので、これからの大学生活は不安よりもわくわくした気持ちの方が大きいです。

サークルも高校での部活動以上に様々な種類があるのでまだ迷っていますが、自分に合うところに入って、違う学部の友達や先輩との交流も楽しみたいです。

短大での生活は2年間なので、きっと、やっとなれてさあこれから…という時に卒業を迎えてしまうような気がします。なので、この大学で学べる貴重な時間を大切にしながら、サークルなどにも挑戦して、卒業するときにやり残したことがないように、充実した毎日を送っていききたいと思います。



社会福祉学部
福祉心理学科
大宮 愛美

北星学園大学に通いはじめて、2週間あまりが経ちました。私にとってこの2週間は、1日1日は新しいことばかり起こるので長く感じていたが、思い返してみるとあっという間だったように感じる、とても不思議な気持ちです。

私が入学する前、期待と不安でいっぱいだった春休みに、周りの人たちによく言われたのは「大学生は人生で最も楽しい時期だから」という言葉でした。新しい学校、新しい生活。全く新しい環境に飛び込んで、果たして自分は本当に楽しく毎日を過ごせるのだろうか、ととても不安でしたが、今ではそれが嘘のように充実した日々を過ごせています。

これからの4年間は、勉学を疎かにしないよう努力しつつ、サークル活動やバイトで日々を充実させ、新たなことに積極的にチャレンジして、社会に出てから困ることのないよう、そして、将来ふり返って見て後悔することのないような、密の濃い時間を過ごしたいと思います。



組織紹介

国際教育センター長 原島正衛	センター長 内山智	短期大学部 生活創造学科長 竹村雅史	英文学科長 豊村和真	短期大学部 英文学科長 栗山隆	福祉心理学科長 安部雅仁	福祉臨床学科長 篠田優	福祉計画学科長 篠田優	経済法学科長 鈴木典	経営情報学科長 修木克傑	経済学科長 荻内豊	心理・応用コミュニケーション学科長 高橋克依	英文学科長 中村浩	短期大学部 生活創造学科長 今川民雄	社会福祉学部 社会福祉学部長 大原昌明	社会福祉学部 福祉心理学科長 伊藤章	経済学部 経済学部長 山哲雄	文学部 文学研究科長 スミス・ミッシェルセンター部長 澤田新裕二	副学長 金井	学長 田井			
事務局長 宮川淳子	就職支援課長 鈴木淳子	入試課長 山本一博	情報システム課長 高野正明	研究支援課長 山田充雄	エクステンション課長 馬場篤	学生支援課(実習事務担当課長) 田中正博	学生支援課(国際教育担当課長) 前村俊一郎	学生支援課(学生厚生担当課長) 桑原大幸	学生支援課(修学支援担当課長) 笠松英雄	学生支援課(教務担当課長) 佐々木薫	財務課長 工藤孝廣	人事課長 竹島浩一	総務課長 川原靖彦	企画広報課長 五十嵐明	事務局次長(学生支援担当) 佐々木律夫	事務局次長(管理運営担当) 小笠原稿幸	事務局 樋田繁治郎	キャリアデザインセンター長 松本康一郎	入学試験センター長 中屋晃	総合情報センター長 中嶋輝明	心理臨床センター長 佐藤至子	学生相談センター長 藤至子

学術出版の紹介

『絵で見てわかる人権』

(2011年3月 八千代出版)
経済学部 岩本 一郎



この度、大学後援会から出版助成をいただき、拙著『絵で見てわかる人権』（八千代出版・2011年）を刊行することができました。

私はこれまで、人権の哲学的な基礎づけについて研究してきました。哲学といっても、その問いは、“なぜ人間に、そして人間にだけ「人権」という権利があるのか”という素朴な問いです。本書の第1の挑戦は、この問い

についての私なりの答えを出すことでした。

では、なぜ人間にだけ人権があるのか。それは、人間が地球上に存在するものの中で“特別な存在”だからです。そして、人間が特別なのは、人間1人ひとりに自分の人生を自分の頭と手足を使って切り拓く力が備わっているからです。さらに、自分の人生を真面目に生きることから、1人ひとりの人間に“自分らしさ”、つまり個性が生まれます。1人ひとりの個性を大切にすることが、人権の基本です。そして、人権は、1人ひとりの人間が“自分らしく”生きるために必要不可欠な自由や利益を保障するものです。私は、本書において、この人権の理念をできるかぎり“私たちの普段使いの言葉”で説明しようと試みました。これが本書の第2の挑戦でした。

本書を手にとった人は、イラストや図表がふんだんに使われていることに驚くでしょう。では、専門知識を伝えるために、なぜイラストを使ってはいけないのか。むしろ、自分の研究してきたことを多くの人に伝えたいならば、あらゆる表現手段を駆使してそうすべきではないか。学問は楽しい。このことを読者に伝えることが、本書の第3の挑戦でした。

大学後援会の皆さまには、このような貴重な挑戦の機会を与えてくださり、たいへん感謝しております。この場を借りてお礼申し上げます。

『わが国にみるフレーベル教育の探究』

(2011年3月 共同文化社)
文学部 酒井 玲子



このたび、出版助成金を得て、これまでのフレーベル研究をまとめて出版することができました。衷心より感謝申し上げます。19世紀のドイツの教育家、フレーベルは青少年のカイルハウ教育舎の実践途上にて『人間の教育』（1826）を出版し、キンダーガルテン（子供の園）を創設しました。本書では「人間の教育」全体の視点から彼の教育思想、理論、方法、実践、事業について言及しました。わが国ではフレーベル教育が導入されて以来、時代の変遷とともに、その方法、教材、教育論、思想が変化してきましたが、本書ではその軌跡を辿ったわけです。

- 第1章 近代教育の始まり
教育の二面性、中村正直など
- 第2章 婦人宣教師によるフレーベル教育の展開
スミス、ローズ、ハウ、キュックリッヒ、クック
- 第3章 新教育の時代とフレーベル教育
大正新教育の特徴と倉橋樵三
- 第4章 フレーベル教育の全体的研究
アルウィン、後藤真造、小川正行など
- 第5章 児童神性のフレーベル教育論
長田新から荘司雅子へ

子どもたちが、死せる大人の起死回生となるという意味での「子どもたちに生きよう」とか、「子どもたちが私たちの審判者である」などの主張は、現代の教育にも示唆を与えるところが大です。
(現学園長)

◆ご相談ください◆ ～学費納入について～

授業料等学費につきましては、毎年、期限までの納入をお願いしているところですが、学費に関する諸制度についてお知らせいたします。

詳細は今年度のキャンパスガイド三十九頁、及び大学公式ホームページ (<http://www.hokusei.ac.jp/>) ↓「保護者の方へ」 ↓「学生生活」 ↓「学費に関するQ&A」をご覧ください。

■各種減免制度

○兄弟姉妹等同時在学減免

兄弟・姉妹等で同時に二名以上が一年を通じて在学されている場合、そのうちお一人以外の方の「教育充実費」及び「後援会費」を全額免除いたします。願い出に当たっては、戸籍謄本の添付をお願いしております。財務課までお申し出ください。

○身体・精神障害者減免

学部、大学院又は短期大学の学生で身体障害者手帳もしくは精神障害者手帳をお持ちの場合は「教育充実費」の二分の一を免除いたします。財務課までお申し出ください。

○修学困難者減免

学費負担者（主として家計を支えている者）の死亡・病氣・自己都合以外の理由での失職（解雇・倒産等）や災害等により経済的に修学が困難になった学部又は短期大学の学生に対する減免制度です。それぞれの状況により条件が異なりますので、学生支援課までご相談ください。

■学費延納制度

万が一、期限までの納入が困難な場合は、学費等延納制度により納入期限を延伸することが可能です。財務課までご相談ください。

入学式開催

四月五日の午後一時より、二〇一一年度の入学式がニトリ文化ホールで開催されました。

当日は気持ちの良い青空が広がり、暖かな春の陽気に包まれる中ご父母の方々も多数出席して下さり、会場は満席となりました。そのなかで、短大部と大学四学部、大学院を含めた新入生総数約一、二〇〇名が、緊張した面持ちで晴れの日を迎えました。式の開催前に、チャプレンから三月十一日に発生した東日本大震災による犠牲者を悼む黙祷が行われました。その後、オルガンの前奏によって幕を上げ、一同による讃美歌「いつくしみ深き」の合唱の後、チャプレンが聖書を読み上げ、祈りを捧げました。次に、学長の式辞があり、理事長から祝辞が贈られ、在学生代表から歓迎の言葉がありました。

式を終えた新入生達はほっとした様子で、ご父母の方と楽しそうに会話をする姿、会場の前で記念撮影をする姿、先輩達のサークルの勧誘に明るい表情で応える姿が数多く見られました。その表情には、これから始まる北星学園大学で



後援会では、毎年卒業生、新入生の皆さんに記念品をプレゼントしております。2010年度の卒業生には、革の名刺入れをお贈りいたしました。色はシックな黒で、中にはポケットが4つあり使い勝手の良い作りとなっております。北星学園大学の校章とロゴが内側にデザインされており、まさにオリジナル製品となっています。また、新入生にはZEBRAのMicroSDカードリーダー付油性3色ボールペンをお贈りいたしました。本製品は、黒、青、赤の3色の油性ボールペンに、ボールペン本体から脱着可能なMicroSDカードリーダーが付属しています。MicroSDカードに保存した携帯電話等の画像、音楽、メール等のデータをパソコンへ保存したり、USBメモリーの代わりとしてもご利用いただけます。ボールペン本体には校章とロゴがデザインされており、こちらも北星学園大学のオリジナルの製品となっています。校章は1991年に北星学園大学開学30周年を記念して学歌と共に作製されました。校章の形はライラックの花びらを表現しており、星のまわりの5つの矢印は、本学の教育方針である人間性、社会性、国際性、そして希望と発展を意味しています。校章に込められた意味を理解していただき、今後の社会生活、大学生活の中でご利用いただければと思います。

2011年度 行事予定

3月	31日(木) オリエンテーション (～4月6日)	7月	2日(土) 第1回札幌地区父母懇談会 (3・4年次、短大2年次対象) 29日(金) 前期授業終了	10月	8日(土) 大学祭(～11日) 29日(土) 第2回札幌地区父母懇談会 (全学年対象) 31日(月) 宗教改革記念講演会
4月	5日(火) 入学式 定期健康診断(～6日、9日) 7日(木) 前期授業開始 授業科目履修登録開始 12日(火) 授業科目履修登録締切	8月	1日(月) 『後援会だより』第106号発行 前期定期試験(～9日) 27日(土) 函館地区父母懇談会 28日(日) 苫小牧地区父母懇談会	12月	1日(木) 『後援会だより』第107号発行 16日(金) クリスマス礼拝 27日(火) 年末授業最終日
5月	2日(月) 学園創立記念祝日(授業日) 9日(月) スミス・ミッション週間(～14日) 27日(金) 後援会第1回役員会	9月	3日(土) 北見地区父母懇談会 4日(日) 旭川地区父母懇談会 10日(土) 帯広地区父母懇談会 11日(日) 釧路地区父母懇談会 16日(金) 後期授業開始 28日(水) 前期末卒業式	1月	18日(水) 後援会第2回役員会 23日(月) 後期授業終了 24日(火) 後期定期試験開始(～31日)
6月	1日(水) 『後援会だより』第105号発行 3日(金) 体育祭(～5日) 11日(土) 後援会総会・懇親会			3月	5日(月) 卒業生名簿発表 14日(水) 卒業礼拝 15日(木) 卒業式 『後援会だより』第108号発行

今年度の地区別父母懇談会は下記の日程で計画しております。懇談会では、大学の情報や、学生の修学状況等についての説明、昼食を取りながらの父母同士の懇談、個別に学生の修学状況(単位修得)、学生生活状況、及び就職関係の相談などができる個別懇談を実施いたします。

2011年度 地区別父母懇談会のお知らせ

履修している授業科目等がわかる「履修登録票」や「授業科目別出席状況」、前年度までの修得単位数とその評価がわかる「成績通知票」などを個別にご用意して、それに基づいて担当教員より説明を聞くことができます。毎年参加された皆様からは大変好評を頂いております。(ただし、個人情報保護に関する法律によ

7月 2日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(3・4年次、短期大学部2年次対象)
8月 27日(土)	函館会場	ロワジュールホテル函館
8月 28日(日)	苫小牧会場	グランドホテルニュー王子
9月 3日(土)	北見会場	ビッツアークホテル
9月 4日(日)	旭川会場	旭川グランドホテル
9月 10日(土)	帯広会場	とかち館
9月 11日(日)	釧路会場	釧路プリンスホテル
10月 29日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(全学年対象)

木々の緑もようやく深くなり、初夏の訪れを感じられる頃となりました。新入生たちも大学生活に慣れてきたようで、活気あふれる学生達でキャンパスは華やかに彩られています。さて、六月十一日に後援会総会が、七月二日には札幌地区父母懇談会が本学にて開催されます。総会では、施設見学や父母向け就職講演会も予定しております。また、七月の札幌地区父母懇談会はもちろん、夏からの地区別父母懇談会の方も皆様に満足していただけるよう、準備を進めております。今年度も多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしております。(後援会事務局 大野)

北星学園大学教育振興寄付金ご芳名
 ☆大学・短期大学部
 (父母・一般・理事・教職員)
 佐藤 信一
 酒井 玲子
 幸坂 敬徳
 (朝日新聞社北海道支社)
 募金のご協力に深く感謝
 申し上げます。
 二〇一一年二月一日から
 二〇一一年四月三十日まで
 (敬称略)

お子様がこの先どのように就職活動を行っていくべきなのか、不安や興味を持たれていらっしゃる方も多いと思われ、ご父母の方も多いと思われ、ので、ぜひこの機会に大学に足をお運びください。

『イマドキの就職活動』
 —三十年前とは様変わり—
 保護者の皆様へ
 三十年前とは様変わりした就職活動。ご自身の就職活動をしてきた時代と、お子様の就職活動はどう違うのでしょうか？
 最近の「シユウカツ」事情と、本学の就職支援体制、就職活動の準備段階として重要視されている低学年支援についても説明いたします。
 また、最新の内定状況等についても報告させていただきます。
 親としてお子さんの就職活動にどう接するべきかのヒントになればと考えています。

就職支援課長 鈴木 淳子
 【学内略歴】
 1976年4月 北星学園大学勤務、学務課長、学生課長を歴任
 2005年4月から就職支援課長(現在に至る)
 【学外での職務及び活動】
 2005年5月 全国私立大学就職指導研究会幹事・北海道支部役員(現在に至る)
 2008年4月 日本私立大学協会就職委員会委員(現在に至る)



ホストファミリー

～ご家庭で国際交流を～

大募集!

北星学園大学では交換留学生のホストファミリーを募集しております。受け入れ期間は1学期(15週間)で、その間の食住費として一定額の補助をさせていただきます。彼らは、日本語と日本文化を中心に学びますが、多くの留学生が日本で一番印象に残った体験としてホームステイを挙げています。ホストファミリーとして登録していただきますと、年に2回、春と秋に「今学期の受け入れは可能ですか」という照会を大学からさせていただきます。ご都合の良い場合には受け入れをお願いするというシステムになっています。皆さんのご家庭でも留学生を迎えて国際交流をしてみませんか？本学のホームページから国際教育センターのサイトもご覧いただけます。ご協力をお願いいたします。

お問い合わせは下記のところまで・・・
 北星学園大学 学生支援課 国際教育係
 電話(代表)：(011) 891-2731 FAX：(011) 895-2500
 ホームページ：http://www.hokusei.ac.jp./kokusai/